

施策の展開について（たたき台）

論 点

基本目標の実現に向けて基本的な施策を3つの柱に分け、これまでの懇話会で出された課題等を整理しました。

これらをもとに、それぞれの柱において、県に期待される役割や取組について検討いただきたい。

施策の柱①

「親しむ」

< 現 状 >

〔鑑賞〕

- 県立美術館・博物館では、観覧料の優遇等により、鑑賞機会を促進しています。
- 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールでは、車いすの方の鑑賞スペースやヒアリンググループの導入等、ホール内での鑑賞サポートを実施しています。
- 県内の小学生等が参加する「びわ湖ホール 音楽会へ出かけよう！（ホールの子事業）」では、県内の特別支援学校の児童生徒と一緒に舞台芸術を鑑賞する取り組みを行っています。

〔創造〕

- 県立陶芸の森では、地域の陶芸作家やボランティア、学校と連携して、「土」を使ってものづくりを楽しむ芸術体験の機会を提供しています。
- 県内の文化芸術団体等が福祉施設や特別支援学校と連携し、アーティストを派遣するなど、文化施設に足を運ぶことが困難な人へのアウトリーチ事業やアーティストの援助を得て行うワークショップ事業に取り組んでいます。

〔参加〕

- NO-MA での企画展や情報発信などにより、障害のある人の芸術活動の認知度の向上により、障害者アート公募展への応募数は275点（平成30年度）となっています。
- 各地域における歌唱、音楽、ダンスなどの表現活動ワークショップの取り組みや、糸賀一雄記念賞音楽祭の開催を通じて、障害のある人による音楽等の表現活動の取り組みが広がってきています。

< 課 題 >

〔鑑賞〕

- 身近な地域の劇場、音楽堂等の文化施設では、県内の文化施設の約6割で障害のある人に対するサポートや理解に関する研修の実施がなく、中でも障害のある人への対応や接遇に関する

る研修の機会が求められています。

- 文化施設においては障害のある人やその家族、支援者のニーズを知る取り組みが積極的に行われていません。
- 文化施設が行う自主公演等の情報について、8割以上の文化施設で事業を届ける取り組みがなく、障害のある人向けにはほとんど発信されていません。
- 舞台芸術の鑑賞にあたって、障害の特性にあった鑑賞サポートや情報保障が行われていません。
- 障害のない人が障害のある人と一緒に鑑賞することを理解したうえで舞台芸術を楽しむ企画の公演事業が県内では少ない状況です。

〔創造〕

- 身近な地域に障害のある人が造形活動や音楽等表現活動に取り組める場所が少ない状況です。

〔参加〕

- 障害のある人が参加できるワークショップなどの参加型事業が8割以上の文化施設で実施されていません。

<主な取り組み（例）>

〔鑑賞の機会の拡大〕

- 文化施設等におけるバリアフリー化等、利用しやすい施設の環境整備
- 障害の特性に配慮した鑑賞サポート等のサービスを充実させた公演や展覧会の実施
- 身近な地域の劇場、音楽堂等の文化施設における文化芸術体験の機会の拡大
- 文化施設職員や福祉事業所職員等に対する、障害への理解や鑑賞の支援方法等の必要な知識や技能等を取得するための研修会や現場体験プログラム等の実施
- 特別支援学校・学級の児童生徒のための、優れた文化芸術の鑑賞機会の拡大

〔創造の機会の充実〕

- 社会福祉施設、学校等における障害のある人向けに行う体験型ワークショップやアウトリーチ活動等の充実、および地域の劇場、音楽堂等、美術館、博物館等の文化施設、公民館等の社会教育施設、社会福祉施設、学校等における障害のある人が障害のない人とともに楽しむことのできるアウトリーチ活動等の実施
- 特別支援学校学習指導要領等を踏まえた特別支援学校等における創造活動の機会の充実

〔参加の機会の充実〕

- 地域の文化施設、社会福祉施設、学校の施設や、県内の文化団体等が主催する事業等における、障害のある人が創造した作品を発表できる機会や参加できる機会の充実
- 学芸員や専門家、アーティストが地域の関係者と一緒に行う参加型プログラムの実施

施策の柱②

「つなぐ・支える」

< 現 状 >

〔活動を支える人づくり〕

- 県内各地域における障害のある人の芸術活動を支える人材の育成および環境づくりを推進し、障害者の社会参加の拡大や県民の障害者理解を促進することを目的とした障害者表現活動の地域拠点づくりモデル事業で育成した人材は23名（平成30年度）となっています。
- 障害のある作家が障害の有無にかかわらず活躍することのできるアール・ブリュットに関する取り組みを、美術、福祉、医療、研究機関、行政などの異なる分野や立場の人たちがつながり支えあうためのアール・ブリュットネットワークの会員は、団体会員198件、個人会員595名、情報会員702件となっています（令和元年8月末現在）。

〔共に学び活動する場づくり〕

- 文化芸術に携わる人に向けて、福祉・文化芸術の二つの視点を生かしたプログラムにより、様々な人が参加できる芸術鑑賞の場を構築するための研修会を開催しています。
- 滋賀県公立文化施設協議会の自主事業として、文化芸術を通じてすべての人が社会とつながり社会参加できるという社会的包摂の考え方をテーマに、地域の劇場、音楽堂等の役割について研修会を実施しています（平成30年度）。

〔相談支援体制〕

- 障害者芸術文化活動支援センターにおける障害のある人の芸術文化活動に関する相談件数は283件（平成30年度）となっています。
- 造形活動を行っている障害福祉サービス事業所63件（平成30年度）のうち、造形活動における作品の取り扱い規定や利用承諾書等を定めている事業所は27か所となっています。

< 課 題 >

〔活動を支える人づくり〕

- 障害者芸術文化活動支援センターの認知度は、福祉事業所では比較的高い一方で、文化施設では低く、文化芸術事業を展開する文化施設の認知度向上が必要です。
- 障害福祉サービス事業所において、障害のある人の特性を理解しながら造形活動や表現活動を支援できる人材が不足しています。
- 身近な地域の文化施設において、専門的知見によるアドバイス等を行うことのできる人材が必要とされています。
- 美術館・博物館、劇場、音楽堂等で障害のある人のサポートや作品の魅力を伝えることのできる人材育成が進んでいません。

〔共に学び活動する場づくり〕

- 福祉の現場の職員と文化芸術分野の関係者が、お互いにスキルや意識を共有できる研修の機会が必要です。
- 障害のある人と文化芸術をつなぐコーディネーターやプロデュースを行う中間支援者や組織の育成が必要です。
- 障害のある人の文化芸術活動の取り組み状況について、文化芸術・福祉それぞれの情報を一元的に収集・発信する取り組みが進んでいません。
- 文化事業を行う人や団体の活動が、福祉関係者に伝わっておらず、逆に、福祉側が行う文化事業が文化団体等に伝わっていないことが多いため、十分に情報が行き届いていないという現状があります。
- 障害のある人が障害のない人と一緒に、文化芸術活動を愉しむことができる「場」、全国規模の様々な実践や研究、人材育成、情報発信ができる「場」や「拠点機能」が必要とされています。

〔相談支援体制〕

- 障害福祉サービス事業所における「著作権等保護のためのガイドライン」の活用など、造形作品の著作権保護に対する取り組みがあまり進んでいない状況です。
- 障害者の文化芸術活動を推進するため、障害のある人に配慮した取組や事業を実施している、あるいは把握している市町は4自治体に留まっています。
- 近年、障害のある作家が多く活躍するアール・ブリュットが注目を集める中で、障害のある人やその家族の造形活動に関する相談支援や支援者の育成など、活動を支える取組の一層の充実が必要です。

＜主な取り組み（例）＞

〔活動を支える人づくり〕

- 福祉を担う人と文化を担う人が共に障害のある人への支援の在り方などを学ぶことのできる文化施設における実践型の研修機会の創出
- 学校や福祉施設等の職員が、芸術分野の専門家等から文化芸術活動を支援する方法を学ぶことのできる研修等の機会の充実
- 障害のある人の芸術活動を地域や県民に結びつけ、広く発表の場を構築することなどを担う中間的な支援組織や人材の養成
- 福祉事業所等の文化芸術活動を行う現場に、学芸員や、芸術系大学や高等学校等の指導者、芸術系大学等からの学生を受け入れるなど、障害のある人やその家族、支援者の思いを分かち合うことのできる研修機会の充実

〔共に学び活動する場づくり〕

- 広域的・全国的なネットワークを活かした交流や意見交換の場を設け、幅広い連携や協力が

できる環境の構築

- 文化芸術分野で活躍する人と障害福祉分野で活躍する人が、分野の垣根を越えて相互の場面で実際に研修を行うためのマッチング機会の創出
- 障害のある人が障害のない人と一緒に、文化芸術活動を愉しむことができる「場」の構築に向けた検討
- 文化芸術活動に係る全国規模の様々な実践や研究、人材育成、情報発信ができる「場」や「拠点機能」の構築に向けた検討

〔相談支援体制〕

- 障害のある人がひとりのアーティストとして、経済面における生活の向上や自立支援の観点から、作品の販売や商品化等につながる仕組みづくりの検討
- 障害のある人の作品の販売や二次利用による商品化等にかかる著作権等、権利の保護に関する知識や普及の一層の促進
- 障害のある人に配慮した施策に取り組む市町が増えるよう、県と連携した施策の実施等の検討
- 劇場、音楽堂等、美術館、博物館、公民館等、身近な地域の文化拠点で障害のない人と同じように文化芸術活動に関する相談ができる機能の持ち方の検討
- 劇場、音楽堂等、美術館、博物館、公民館等、身近な地域の文化拠点を広域的に支援するための調査研究

施策の柱③

「活かす」

< 現 状 >

〔発信〕

- 県内の障害のある作家の作品を中心に、国内外の展覧会に出品されたアール・ブリュットの作品を県内の旅館や商業施設などに展示し、作品の魅力を発信しています。
- 「共生社会」の実現につながる象徴的な取り組みとして、NO-MA が行う企画展の開催、障害者の芸術に関する情報の発信などの取組を支援しています。
- 障害者の文化芸術国際交流を進めるための実行委員会に参画し、国内外で障害のある人の芸術上価値の高い作品の魅力を発信しています。

〔評価、蓄積〕

- 近代美術館においてアール・ブリュット担当学芸員を設置し、作品の調査、収集、展示を行っています。

< 課 題 >

〔発信〕

- 国内トップレベルの劇場，音楽堂等であるびわ湖ホールや 2021 年度に再開館を予定する近代美術館において、福祉の枠を超えた芸術性の高い滋賀の特徴的な文化として作品を発信し、国内の取組を牽引していくことが求められています。

〔評価・蓄積〕

- 障害のある人の作品を評価・発掘し、あるいは創造するための取り組みがあまり行われていません。
- 県内で行われる発信力の高い文化事業と連携した取組があまり進んでおらず、こうした文化事業に参加するアーティスト等との交流や連携が進んでいません。

<主な取り組み（例）>

〔発信〕

- 障害の有無にかかわらず、誰もが文化芸術を一緒に楽しむことのできるモデルとなる公演や展覧会の検討と県内外への発信
- 県内外における幅広い展示機会の確保や公演の実施等、効果的にその魅力を発信する仕組みの検討
- 早くから文化と福祉が連携して取組を進める先進県として、障害のある人が障害のない人と一緒に制作した国内外で評価の高い作品を、びわ湖ホールや文化産業交流会館において公演

するなど、全国にその魅力を発信するための方策の検討

〔評価・蓄積〕

- 芸術上価値が高い作品等の調査、発掘、評価、収集、保存
- 障害のある人が障害のない人とともに楽しむことのできる公演等の企画・制作ノウハウの蓄積とあわせ、県内外で公演が実施できるような作品の蓄積
- 2021 年度を予定している近代美術館の再開館時において、滋賀の美の一つとしてアール・ブリュットに関連する展示を行うとともに、さらに 2020 年度に新生美術館基本計画を見直し、「美の滋賀」の拠点として美術館のさらなる機能向上を検討